

週日の説教（初金・癒しのミサ）

金 大烈 神父 2010年6月4日（金）

《心が癒されなくてはなりません》

おはようございます

信者でない方はおられますか。一人もいらっしゃいませんね。

（初金のミサは、毎月癒しを授けて下さる事になり、希望者には病者の秘蹟も行って下さる事になりました。）次回には信者でない方もお誘いが必要じゃないかと思います。

綺麗なギター之音を聞いて皆様もいつもとちょっと違う気持になったでしょう。（ミサ曲の伴奏が今日はギターでした）

さあ、先月の初金のミサで少し申し上げたのですが、治癒と癒しといえは二つに分けられます。一つは内的治癒、もう一つは外的治癒、外的治癒といえは一般的に言われるのは色々な病の事ですね。肉体的な病気から癒されるように求めることを外的治癒と言います。それでは内的治癒とは何でしょうか。

それは簡単に言いますと「心の治癒」です。私達は一生のうちに色々な傷にぶつかります。そしてその傷が自分のものになる訳です。自分のものになって終わったらいいのですがその傷は他の人に移ります。肯定的な影響はそこには絶対ありません。否定的な悲しい傷だったらいつも隣の人々をも悲しませます。痛い傷だったら隣の人にも、特に関わりのある人々の心を痛めさせます。このように心の傷、心の病は本当に私達が一番癒しを求めなければならないものだと思います。はっきり申し上げますと、私達は皆、心の病を持っています。ある意味で「私には心の病は一つもありません」と言う人が一番ひどい心の病にかかっているかも知れません。

さあ、心の癒し、内的治癒のために最も必要なもの、それは何でしょうか。それは“悔い改め”です。悔い改めは何処から来るのでしょうか。「こんなに私は愛されているのに、私は何をしているのか。」これから始めます。

皆様が信仰の生活をしていながらも、ある時には無感覚で、ある時には癖になって、また、ある時には義務感のような感じで、信仰の生活をしているご自分の姿に気付くことがあると思います。しかし、私が数年間、いつも強く皆様に申し上げて来たことは「信仰の生活は命がけです。」という事です。何回も申し上げましたので皆様も覚えていらっしゃると思います。

結局、私達は優しく言いますと皆死にますよね。誰でも死にます。そして快癒されても、色々な病気から開放されても、結局いつか弱くなって死にます。一番いいのは、いつ死ぬか分からなくても、その時まで健康な心、痛みを感じない肉体を持って、イエス様の呼び掛けに応じられればそれが一番幸いでしょう。

ですから皆様、今日のミサを二つの面で考えて頂きたいのです。

先ず私達の心が丈夫でなくては何の体の快癒も意味がありません。そして治癒は必ず丈夫な心から始まります。この心をお持ち下さい。そして丈夫な心を持つためには何よりも、イエス様の愛を実感する事です。実感が出来れば私達は自然と頭が下がります。「私はこのような生き方をして来てしまって、申し訳ございません。どの位残っているか分かりませんが、これから何とか頑張ります。あなたの愛に入ります。」という自然な祈りが口から出るのではないのでしょうか。それが出来てから私達は色々な、さまざまな病からの癒しを求められると思います。

さあ、病から開放される唯一の方法は先ず、心が癒されなければなりませんね。その後自然にできる現象はなんのでしょうか。しょうがなくて私達は子供になります。子供の心になります。以前にも話したかと思いますが、子供の時に真夜中目が覚めて、隣に母とか親父がいないことが分かったら、怖くなってしまい、また眠るのが難しくなってしまいます。しかし、お母さんの寝息や親父の寝姿が横に見えたら安心します。この心が信仰です。この心が本当に私達にとって一番大きな信仰です。ですから、どんな難しい事が待っていても「親父が守ってくれるから、母が抱きしめてくれるから」というその心が何よりも必要だと思います。

そのような信仰の中で、自分の人生一生涯を、全体的にみる事が出来ます。「私は今、どの位無駄な事を追いつけようとしているのかが分かります。今、子供として、どのように神様の御心を量る事が出来たのか。感謝します。人生の真の意味について分かります。」という告白的な祈りが、自然に出るのではないのでしょうか。

皆様、子供になりましょう。少なくとも神様の前では子供になりましょう。子供であれば泣いても、子供っぽく悪戯してもいい、そして、すねてもいい、ちょっと間違えてもいい、なぜなら、その責任は神様が負って下さるからです。忘れてはいけないこと、それは「私はあなたを御父として受け入れます。」そのようにして下さい。させて下さい。そういう心があれば病はただの病ではなく、一步神の御心に近づく早道になるのではないかと私は思います。

さあ、毎月の初金ミサは癒しのミサを授ける事になっていますね。先ず皆様をお願いしたい事は、病者の秘蹟を受けられる方は一番前の席へお座りになって下さい。病者の秘蹟について説明します。この秘蹟を昔のイメージで重く感じている方がいらっしやると思います。昔は病者の秘蹟を終油の秘蹟と言いましたね。それはイエス様に呼び掛けられてもう逝かなくてはならない時に、終わりの時に油を塗る事でした。今は変わりましたね、変わっていつでも何かの手術前とか、病にかかって弱くなった時に力を頂く意味で、そして、「癒して下さい」と願って病者の塗油を受けます。病院に入院して手術をする時、「働くその力は神様の御手であり、医者とか色々なものは、ただ道具である」と、そういう心を持って病者の秘蹟を受けるのですよね。

では司祭らしくない司祭と言われる司祭がいるかも知れません。あの方は本当に司祭らしい司祭だと言われる司祭もいるかも知れません。その二人が授ける秘蹟の力はどうでしょうか。人によって変わるのでしょうか。いいえ、変わりません。同じです。なぜなら、司祭はただの道具だからです。あ

る意味で入り口です。秘蹟の力の主人はイエス様です。そういう意味で私達が秘蹟を受けることです。赦しの秘蹟は、もちろん、これも進められている一つの司牧的配慮なのですが「私は、ある司祭には赦しの秘蹟は受けたくないのです。ちょっと遠くまで行くことになっても、他の司祭に赦しの秘蹟をお願いします。」これは悪い事ではありません。その人に対して配慮する人間的な色々な事があるのですから。しかし、元の意味は、その赦しを授ける司祭の姿を意識すること自体が間違いです。秘蹟そのものの意味を、私達はどのように受け取っているかそれも問題です。

とにかく皆様、この秘蹟、そして司祭の手を通して行われる按手。これを人間「金大烈」を意識しないでキリストを意識して下さい。その方が共になさいます。そして、その御手と共に聖霊の働きが強くなります。イエス様がいつも、いつもおっしゃったことですが、「私は無能です。私が手を伸ばしても、あなたが一緒に私の手を受け取れなかったら私は何も出来ない」と。

皆様がどのような心でここに来たのかによって、秘蹟の力が発揮されるかどうかが決まる事を意識しましょう。これから病者の秘蹟を授けます。

ありがとうございました。